



なが た とも こ  
**永田智子**

授業実践リーダーコース准教授

勤務校にデジタル教科書と電子黒板が導入されました。どのように活用したらよいでしょうか。

**デ**ジタル教科書や電子黒板などICT (Information and Communication Technology) = 情報通信技術(機器)を授業に効果的に活用すると、児童生徒の学習意欲が向上し、テストの得点も良くなるなど学習効果が高めるといわれています。

ICT機器に慣れていない教員は、デジタル教科書にある絵や写真、動画を大きく映し出すことから始めましょう。拡大表示した写真や動画は児童生徒の学習への興味関心を高めます。また、「○ページの△の□□の部分を見てください」と口頭で説明するよりも、大きく映し出した図を指して「ここを見てください」と言えば簡単に指示が通ります。

電子黒板は使い慣れてく



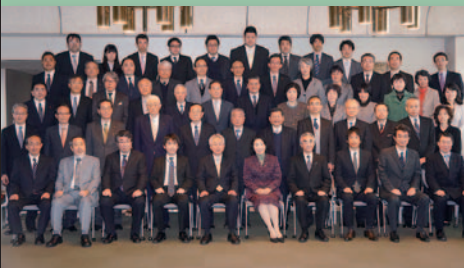
れば画面をタッチするだけでデジタル教科書を操作できたりと、授業をテンポよく進められます。また、ペン機能を駆使して大事なところに○を付いたり、アンダーラインを引いたりすることで、注目すべきところがよく伝わり、理解を助けます。児童生徒に電子黒板を使わせて説明させる学習活動なども効果的です。

授業時間中ずっとICT機器を使う必要はありません。最初の5分間だけ使い、残りの時間は従来の教科書とノートによる授業でも構いません。ICT機器はあくまで「授業の目標」を達成するための指導の工夫の一つにすぎないのです。逆に言えば、今日の授業には必要ないと判断すれば使わなくてもいいのです。ただ、ICT機器は工夫の仕方によって学習効果が上がるといわれていますので、使うべきポイントを理解し、いつでも使いこなせるスキルを身に付けておきたいですね。

**キャンパストピックス**

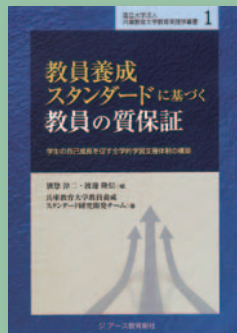
CAMPUS TOPICS

「全国市区町村教育長セミナー」を開催



昨年12月14日から16日まで、全国市区町村教育長セミナーを東京大学で開催した。地方分権化が進む教育行政において、教育長の役割がより重要視されていることから、教育長のリーダーシップの育成と情報交換の機会の提供が目的。全国から33人の教育長が参加した。

「兵庫教育大学教育実践学叢書」創刊号を刊行



兵庫教育大学の教育実践学研究成果を学外に広く発信するため、昨年8月、ジエース教育新社から発刊。創刊号は文部科学省GP(平成21~23年度)に採択され、兵庫教育大学が3年間総力を挙げて取り組んだ「教員養成スタンダード」開発の研究成果をまとめている。教育実践学叢書は今後、年度ごとに刊行していく予定。

東日本大震災復興支援ボランティアを実施



昨年9月18日、学部生・大学院生30人が宮城県へ出発。21日までの4日間、南三陸町の漁港で養殖用いかだのおもりに使う土のうを大小合わせて約1,700個作り、気仙沼市では海岸清掃や駐車場の整備に取り組んだ。参加者からは「復興支援とは忘れないこと」「被災地で感じたことを伝え、広めていくことが大事」などと感想が聞かれた。